

光州世光学校

**日本の視覚障害者教育の現況
～歩行及び日常生活を中心として～**

2013年3月20日

北海道文教大学 准教授 鈴木重男

目 次

北海道の現況

I 視覚障害教育の現況

- 1 日本の特別支援教育
- 2 児童生徒数

II 歩行と日常生活

- 1 歩行
- 2 日常生活

- ① 拡大教科書
- ② K-Sonarの活用
- ③ 点字指導と墨字指導等

III おわりに

北海道の視覚障害教育の現況

北海道

面積 : 83,550km²(84%)
人口 : 560万人 (12%)

2012年度

特別支援学校 学校数63校 在籍者数5,221名
盲学校 5校 在籍者数 174名

大田盲学校と交流

札幌盲学校
32名 1943年

高等盲学校
78名 1972年

函館盲学校11名
1895年

釜山盲学校と交流

旭川盲学校
32名 1922年

帯広盲学校
21名 1937年

大韓民国

面積 99,434 km²
人口 4,700万人



HIGUMA



Shiretoko

特別支援教育の対象の概念図(義務教育段階)

義務教育段階の全児童生徒数 1055万人

特別支援学校

視覚障害 知的障害 病弱・身体虚弱
聴覚障害 肢体不自由

0.62%
(約6万5千人)

小学校・中学校

特別支援学級

視覚障害 肢体不自由 自閉症・情緒障害
聴覚障害 病弱・身体虚弱
知的障害 言語障害
(特別支援学級に在籍する学校教育法施行令第22条の3に該当する者：約1万7千人)

1.47%
(約15万5千人)

※1

通常の学級

通級による指導

視覚障害 自閉症
聴覚障害 情緒障害
肢体不自由 学習障害(LD)
病弱・身体虚弱 注意欠陥多動性障害(ADHD)
言語障害

0.62%
(約6万5千人)

※2
発達障害(LD・ADHD・高機能自閉症等)の可能性のある児童生徒
6.5%程度の在籍率 ※3

(通常の学級に在籍する学校教育法施行令第22条の3に該当する者：約3千人)

2.71%
(約28万5千人)

$$2.7\% + 6.5\% = 9.2\%$$

※1 平成23年度実施調査においては、東日本大震災の影響を考慮し、岩手県、宮城県、福島県及び仙台市においては調査を実施していない。
また、東京都においては調査への回答が得られなかった自治体がある。

※2 LD (Learning Disabilities) : 学習障害, ADHD (Attention-Deficit / Hyperactivity Disorder) : 注意欠陥多動性障害

※3 この数値は、平成24年に文部科学省が行った調査において、学級担任を含む複数の教員により判断された回答に基づくものであり、医師の診断によるものでない。

(※3を除く数値は平成23年5月1日現在)

視覚障害特別支援学校86校(在籍5,882名)の内訳

視覚単独 66校(旧 盲学校) (2007年71校)

視覚・知的 1校

視覚・病弱 1校

視覚・肢体・病弱 1校

視覚・聴覚・知的・肢体 1校

視覚・聴覚・知的・肢体・病弱 16校

2011.5.1現在

86校

合計 6,397名	幼稚部	小学部	中学部	高等部
特別支援学校 5,882名	246	1,794	1,042	2,800
特別支援学級 弱視 385名	※	292	93	※
通級指導教室 弱視 130名	※	111	19	※

視覚障害児の在籍: 小学校65%、特別支援学校35%

文部科学省 2009.12調べ

合計 3,449名	児童数	点字教科書	拡大教科書	通常教科書等
小学校 通常学級	1,547	8	522	1,017
小学校特別支援学級	693	40	344	309
特別支援学校小学部	1,209	138	143	928

教科書発行者による教科用特定図書

原中教科書



2… 種子にふくまれているものはなにか

インゲンマメが発芽してしばらくすると、②の部分が小さくなって、しおれてくる。

? ②の部分は、種子が発芽するときに、なにかはたらきをしているのだろうか。

観察 1

インゲンマメの②の部分の中身は、発芽する前と発芽したあとでどうちがうか、調べよう。

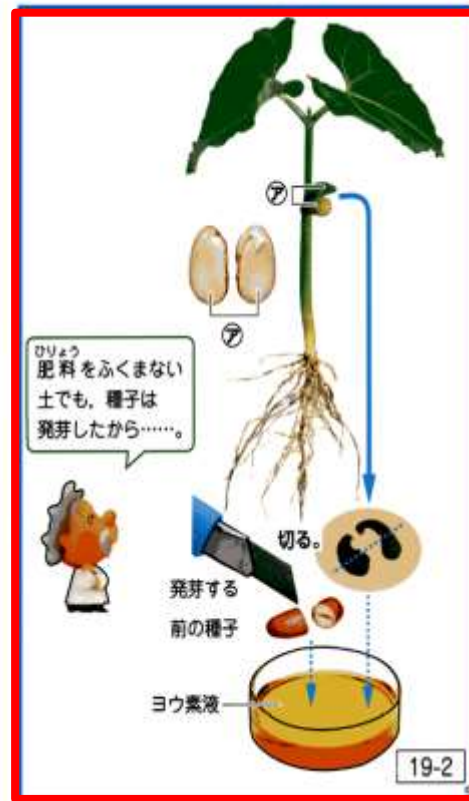
① 水にひたしてやわらかくした種子を切り、ヨウ素液にひたす。

② 発芽してしばらくたった②の部分を取り、切ってヨウ素液にひたし、①とくらべる。



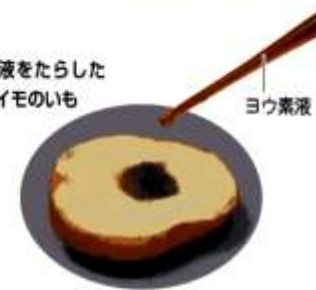
ナイフを引くほうに、指を置かないように注意する。

19-1



でんぶんの調べかた

ヨウ素液をたらしたジャガイモのいも



ヨウ素液は、でんぶん（いもやパンなどにふくまれているもの）を、青むらさき色に変える性質があるので、でんぶんがふくまれているかどうか調べることができる。

19-3

国立特別支援教育総合研究所研究紀要 第35巻 2008

特集 拡大教科書の作成及び教育的支援に関する研究

拡大教科書作成の効率化・質の向上と
作成支援ソフトウェアの開発

金子 健*・渡辺 哲也**・大旗 慎一***

1頁
↓
3頁

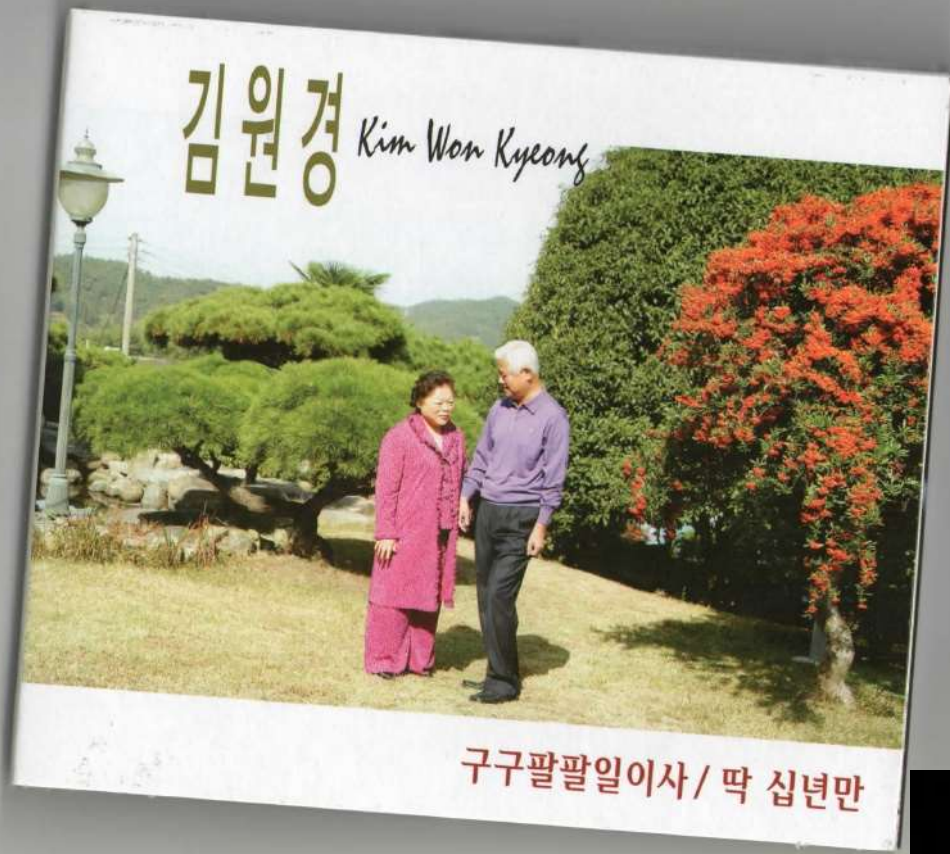
学年	教科書 番号	書 名	分冊数・頁数／	字体	定価
			文字ポイント／判型		
1	数学 722	大日本図書 中学校拡大教材 数学の世界 1年	4冊／1,420頁／18P／A5 (通常／リング製本版)	丸ゴシック	¥261,979
			4冊／1,420頁／22P／B5 (通常／リング製本版)		
			4冊／1,420頁／26P／A4 (通常／リング製本版)		
2	数学 822	大日本図書 中学校拡大教材 数学の世界 2年	4冊／1,172頁／18P／A5 (通常／リング製本版)	丸ゴシック	¥200,937
			4冊／1,172頁／22P／B5 (通常／リング製本版)		
			4冊／1,172頁／26P／A4 (通常／リング製本版)		

2012年度 教科書発行者の価格 中学校数学

視覚障害のある方々の特徴

高い能力はある

内的動機をどう高めるか



努力

感動

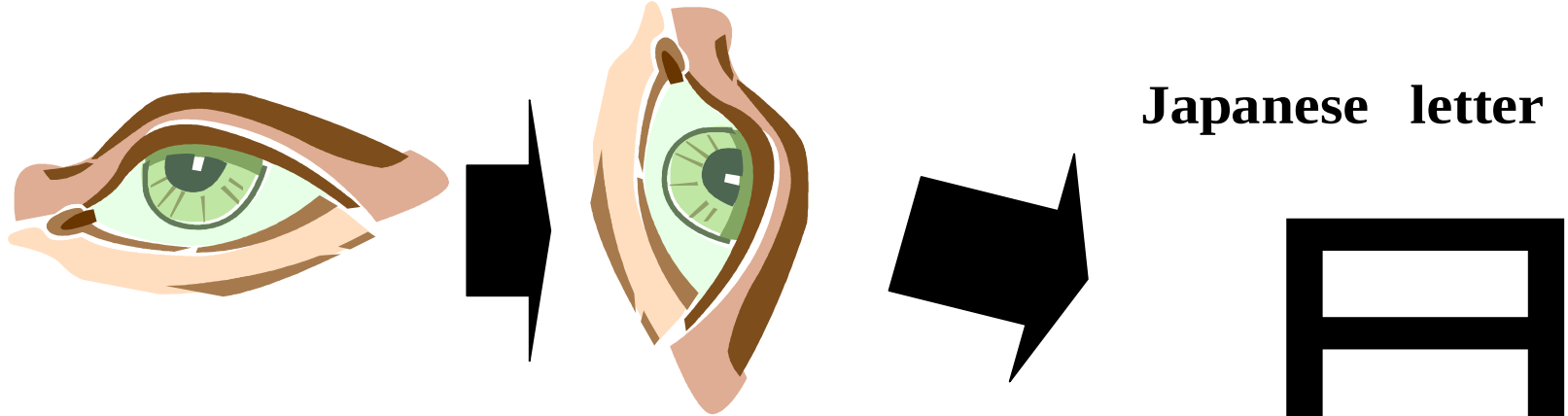


Hasegawa
Kiyoshi

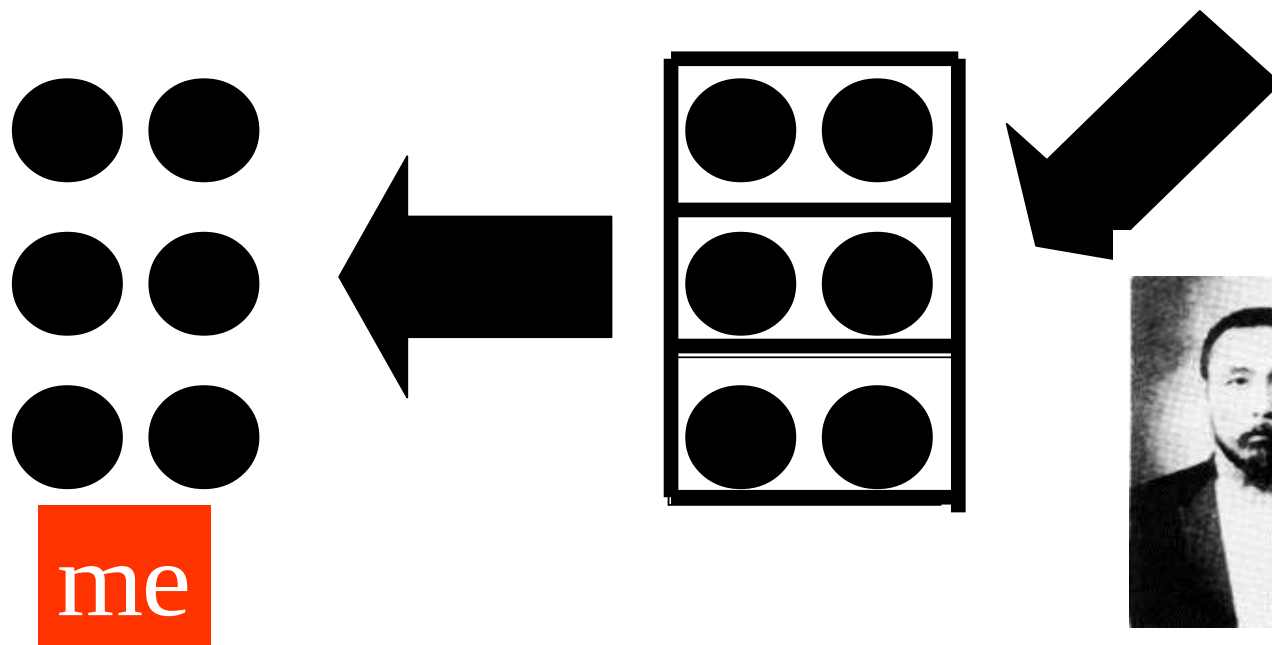
視覚障害サービス

- ・コミュニケーション指導
- ・歩行指導
- ・空間概念指導
- ・その他サービス

コミュニケーション指導



An idea of Mr. ISHIKAWA

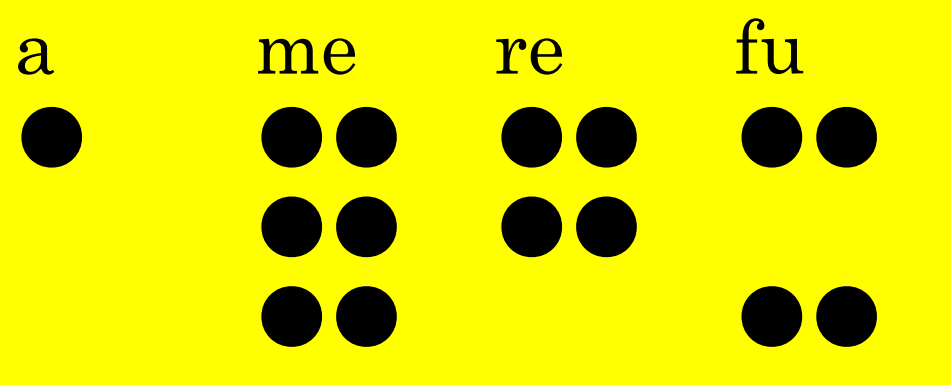


ISHIKAWA
kuraji
石川倉次
(1859~1944)
日本点字の翻案
1890年11月
1日に、正式採用

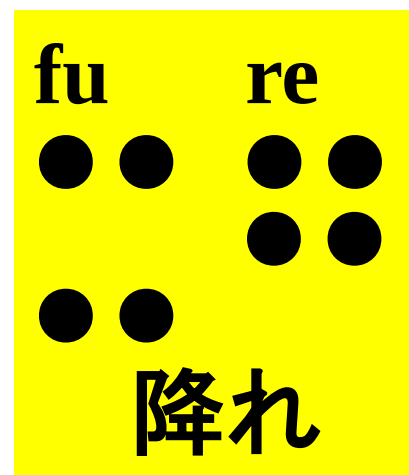
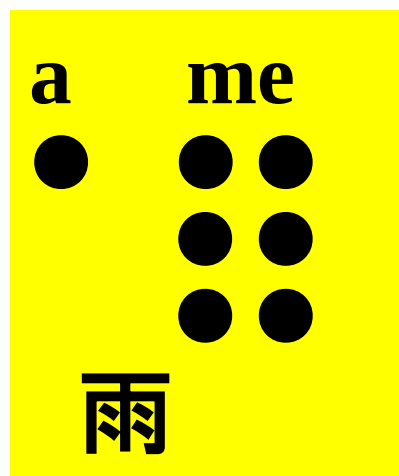
	αの形		レの形		フの形
あ		め		れ	
● ○ ○ ○ ○ ○	아	● ● ● ● ● ●	메	● ● ● ● ○ ○	레

a	Me	Re	Fu	U	I	ni	ku
●	● ● ● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●	● ●	● ●	● ● ●	● ● ●

	uの形		iの形		二の形		クの形
う		い		に		く	
● ● ○ ○ ○ ○	우	● ● ○ ○ ○ ○	이	● ● ● ● ● ○	ㄴ	● ● ○ ○ ○ ○	구



鈴木式点字指導法

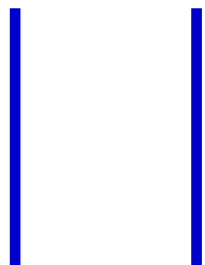


童謡 あめふり

概念

縦 横 1・2 右 左 十字 カギ

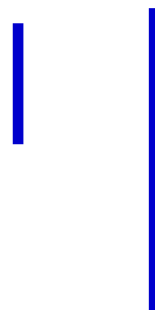
i



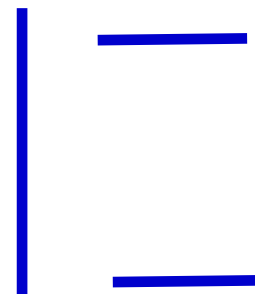
ko



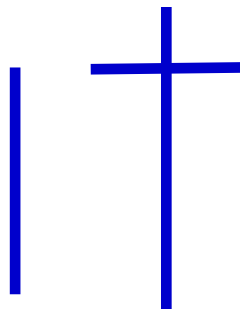
ri



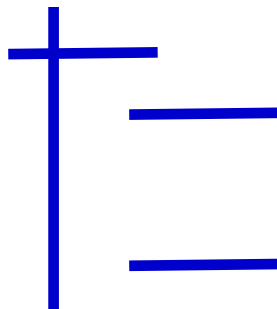
ni



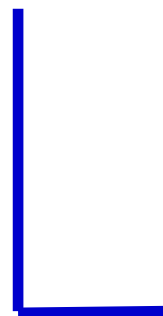
ke



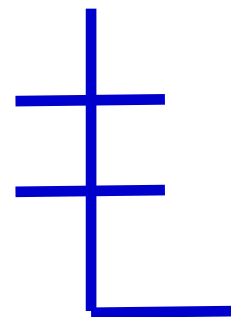
ta



shi



mo



難易度1 (I-型)

い こ り に け た し も
 || || || || || || || ||

い：タテ線2本
 り：左が短いタテ線
 右が長いタテ線
 け：左にタテ線、右に十字
 し：左下のカギ線

こ：ヨコ線2本
 に：左にタテ線
 右に「こ」のヨコ線2本
 た：左に十字
 右下に「こ」のヨコ線2本
 も：「し」の左下のカギ線に「こ」のヨコ線
 2本

難易度2 (\ / 型)

く へ て そ さ き ん え
 < ^ 7 3 け け △ 乙

く：「し」の左下のカギ線を90度時計回りに回転
 へ：「く」を90度時計回りに回転

て：「へ」を90度時計回りに回転

さ：「け」の左のタテ線を下に短く書く

ん：「し」のタテ線を右上から左下に斜めに書く

そ：小さい「て」に続けて大きな「て」を書く

き：「け」の右の十字のヨコ線は「こ」、左のタテ線は「さ」と同じ位置に書く

え：「こ」に続けて「ん」を書く

難易度3 (コ □ 型)

っ う か ち ら や と せ
 コ □ っ う か ち ら や と せ

っ：「て」の下にヨコ線
 か：「っ」と「い」の組合せ。「い」の左のタテ線を「っ」の上のヨコ線に負いて書く。「い」の右のタテ線は「っ」から右に離して書く

ら：短いタテ線を書く。少し離してタテ線に続けて「っ」を書く

と：「っ」の短文字を書く。上ヨコ線の上にタテ線を置くように書く。

う：「こ」に続けて「っ」を書く
 ち：十字に続けて「っ」を書く

や：「っ」と「い」の組合せ。「い」の左のタテ線を長く、右のタテ線は短く、「っ」の上ヨコ線に負いて書く

せ：「し」と「十字」の組合せ。「し」のタテ線に「十字」のヨコ線を負いて書く。

難易度4 (よ 型)

よ ま は ほ す な む み
 よ ま は ほ す な む み

「よ」のヨコ線の無い形を「基本形」とする。

よ：基本形タテ線上の右に短いヨコ線

は：「け」に続けて基本形

す：基本形の丸め終末部を下に長く伸ばす

む：「す」の丸め終末部を右に伸ばす。伸ばした線の最終部の上に「ちゃん」

ま：「こ」に基本形

ほ：「は」の上のヨコ線は「こ」

な：左に「十字」、右はタテ「ちゃん」、離して下に基本形

み：短いヨコ線を書き、引き続いて基本形を書いて、最終線を右に伸ばして、「十字」

難易度5 (O 型)

の め ぬ あ お ゆ
 の め ぬ あ お ゆ

「の」を5「基本形」とする。

の：基本形

ぬ：「め」に続けて難易度4基本形

お：「十字」に続けて基本形、右上に離して「ちゃん」

め：タテ線に基本形

あ：「十字」に基本形

ゆ：短いタテ線に続いて「っ」を書いて長いタテ線

難易度6 (U n 型)

ろ る ひ わ れ ね ふ を
 ろ る ひ わ れ ね ふ を

ろ：小さな「て」に続けて「っ」

ひ：「て」に続けて縦の「っ」、上を右に伸ばす

れ：「わ」の終末部を右に伸ばす

ふ：「ろ」の左右下に「ちゃん」「ちゃん」

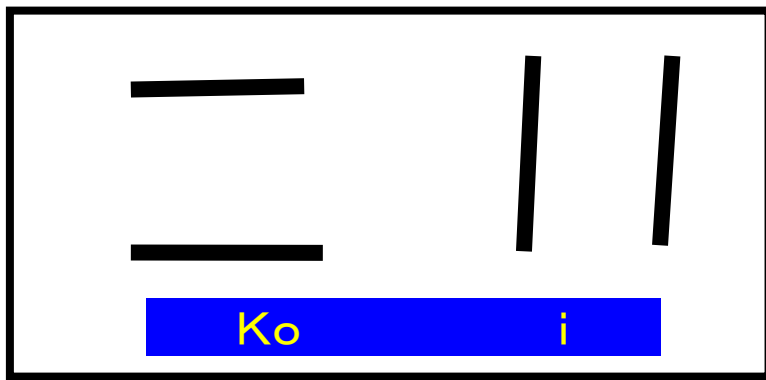
る：「ろ」に続けて難易度4基本形

わ：タテ線と「ろ」の組合せ

ね：「わ」に続けて難易度4基本形

を：「ち」と「と」の組合せ

ひらがなの構造的指導法



鯉

Ko i

잉어



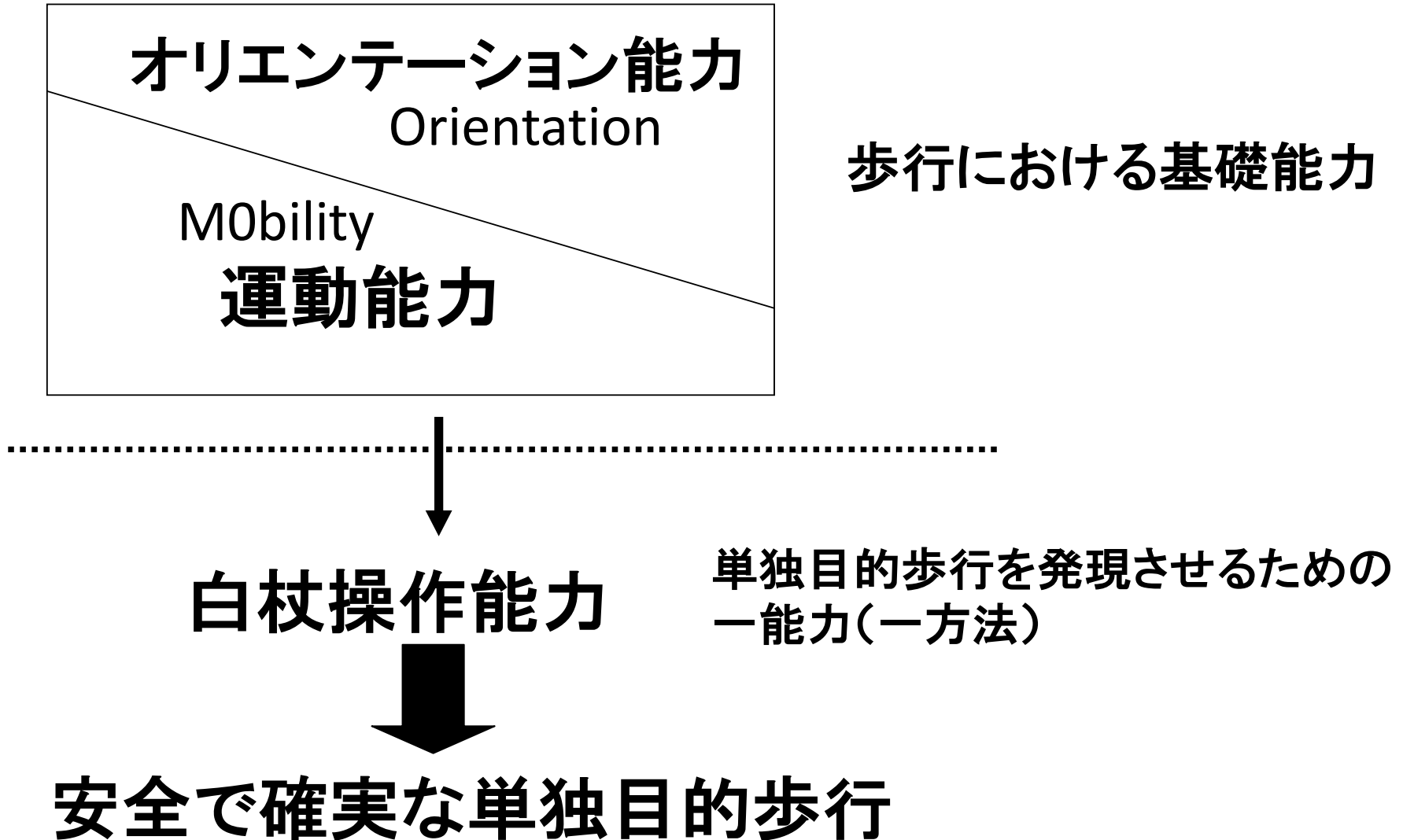
恋

Ko i

연애

步行指導

Orientation & Mobility



Orientation

体の中の
地図

手の中
の地図

頭の中
の地図

触察図の工夫

Body
Image

教室の
地図

校内の
地図

学校敷
地内の
地図

学校周
辺等の
地図

Mental
Map



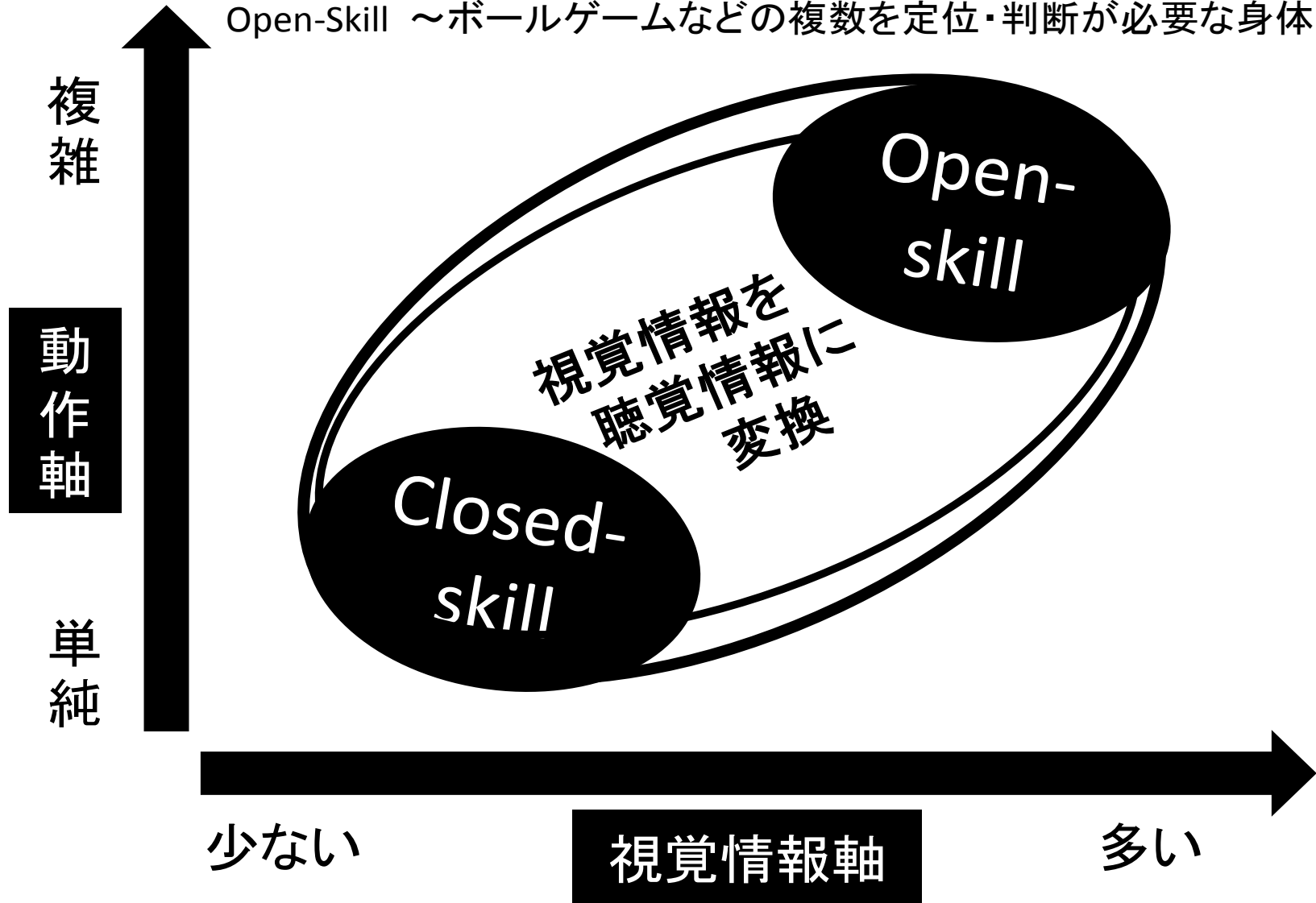
photo - 3375034



Mobility

Closed-Skill ~ 歩く・走るなどの基礎的身体運動

Open-Skill ~ ボールゲームなどの複数を定位・判断が必要な身体運動



○幼稚部

①ボディイメージ

- ・主要な体の部位名
- ・Laterality(絶対的方向)の強化

・基本的な動作

②軌跡 ・基本的な動作

- ・単純な歩行軌跡
- ・音源定位→音源移動軌跡

③地図

- ・室内ミニチュア
- ・トレーリングと防御
- ・障害物(空間構成物)の発見と賞賛

④白杖探索

- ・音で
- ・白杖からの感触で

①乳幼児事例

②幼児事例





ヘレンケラーと
サリバン先生



○小学部低学年

①ボディイメージ

- ・細かな体の部位名
- ・様々な動作
- ・Directionality(相対的方向)の強化

②軌跡

- ・図形的歩行軌跡
- ・交差点における交通音の流れ

③地図

- ・校舎内
- ・学校敷地内
- ・学校周辺

④Cane Technic

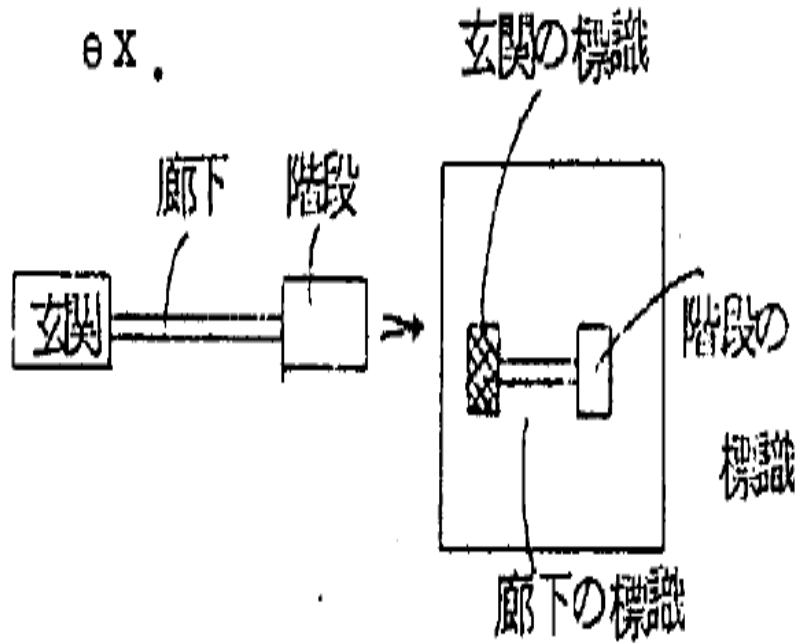
- ・Touch Tech.
- ・Short Cane Tech.
- ・Guide Line Tech.
- ・Slide Tech.
- ・Diagonal Tech.

⑤ルート歩行(近辺の店への買物: 自立の一步)

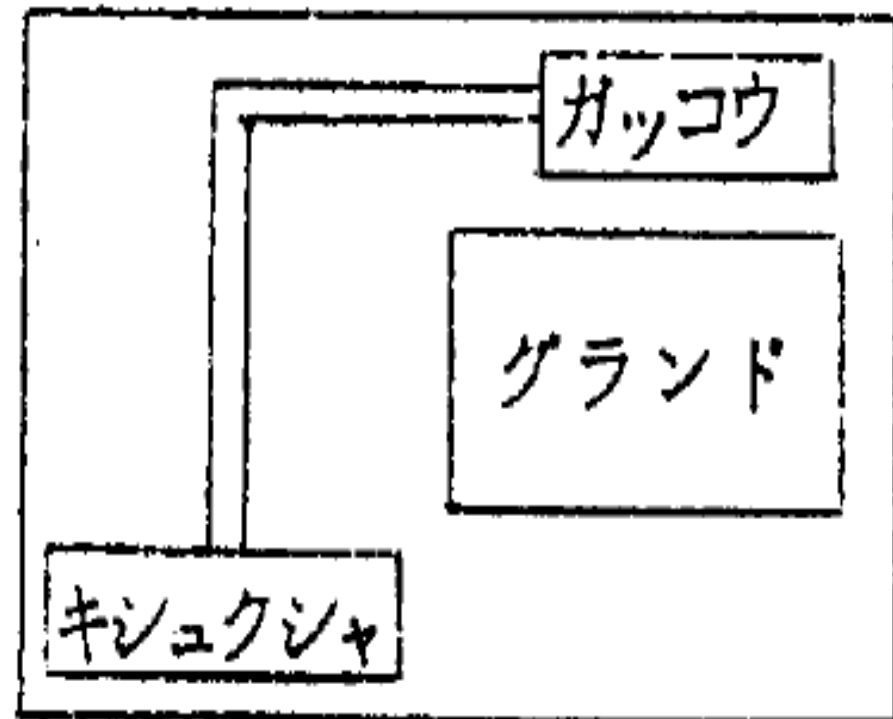
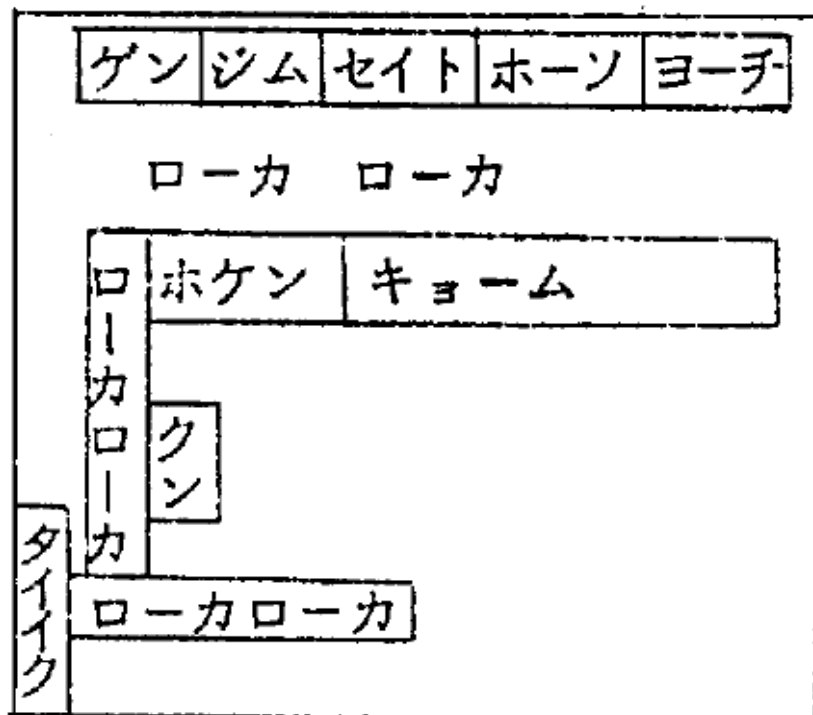




0 X .

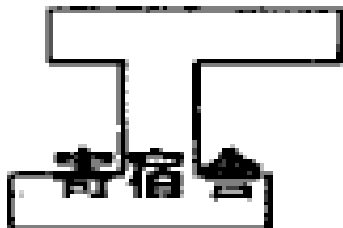


積木や点図での
校舎内地図の作成

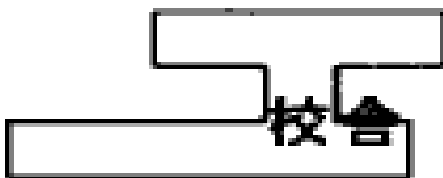
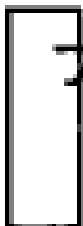
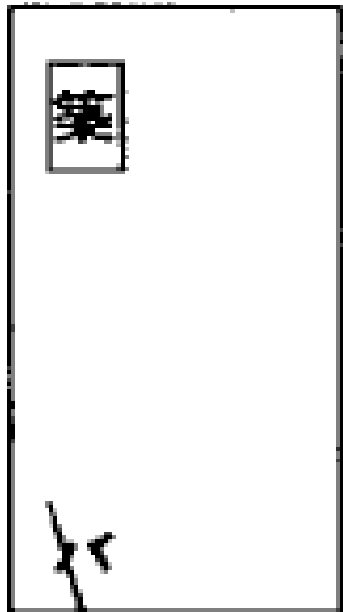
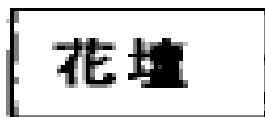


ウ レ レ レ レ レ レ レ レ レ レ レ レ レ レ レ レ レ レ レ メ

ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ



ウ
ウ
ウ
ウ
ウ



点図の作成
学校敷地内

メ
メ
メ
メ
メ
メ
メ
メ
メ
メ
メ

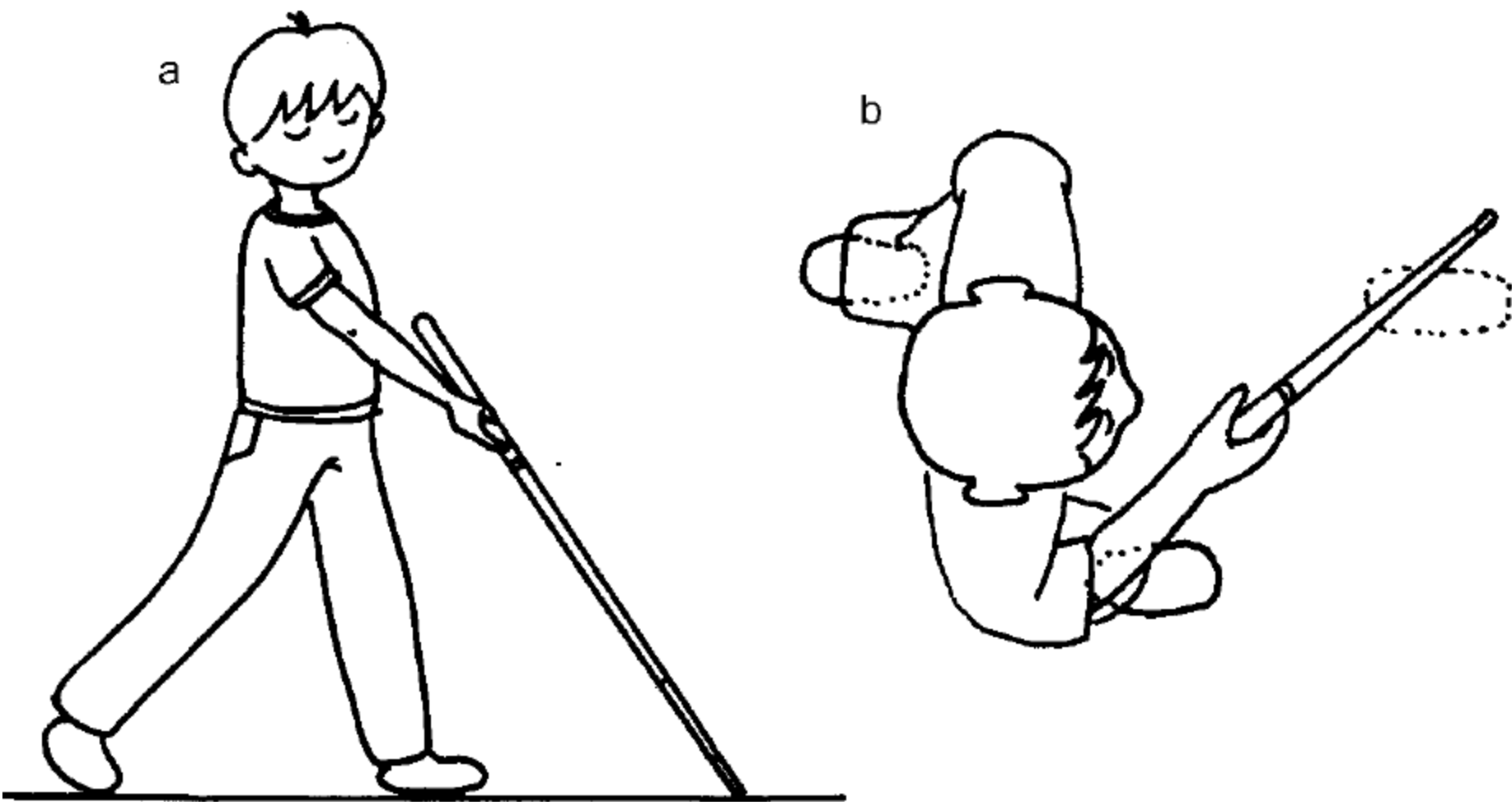


図 2-10 2点タッチ操作の白杖歩行

タッチ・テクニックTouch technique の原理

- 白杖の接地他点：2歩前方分
- 振り幅：肩幅
- 白杖接地リズム：足の接地リズムと同じリズム
- 白杖の接地方向：対足側に白杖を接地する
- 柔らかな手首の操作
- 処方された白杖：歩行能力、身長、歩幅により長さを決定
- 閉じた技能としての定着化
- 白杖入力情報と他感覚入力情報の同時処理化

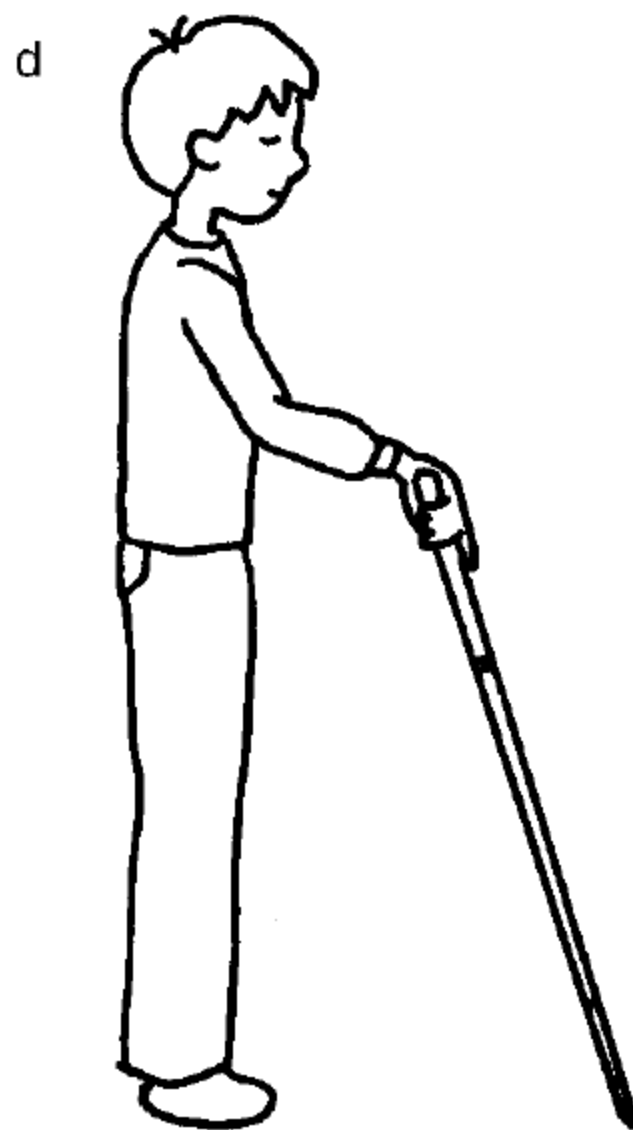
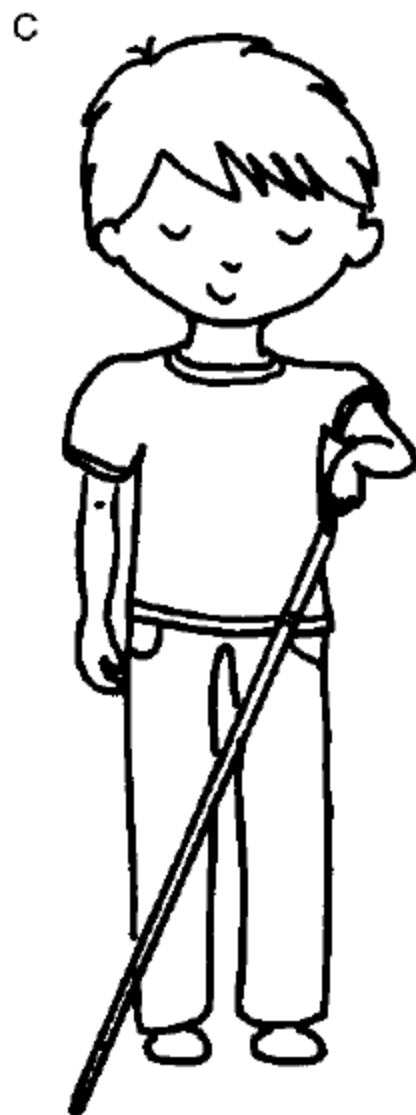


図 2-11 ダイアガナル操作の白杖歩行

ダイアガナル・テクニック

Diagonal technique

◎使用方法

- ・体の正中線に対して白杖を斜めに操作
手首をかえす型、ペン型、握りバシ型など

◎使用される情況

- ・物体の認識時、ヒューマンガイド時、段差等の確認時、ガイドラインに沿って歩く時、目的方向の人の流れに沿って歩く時（出入口等）



北海道



Winter Traveling in Hokkaido Land Japan

Sigeo Suzuki

Hokkaido High School for the Blind,
Fushimi, 4 Chome, Sapporo, Japan.

Translated by Hitoshi Shintani

Hokkaido, the second largest island in Japan, is located in the far north of the islands: at 45 degrees latitude, and 138 degrees longitude, it is covered with snow for six months of the year, from November to April.

As a trainer for winter traveling for 10 years in this area, I have developed some



systems which may be of interest in similar climates.

1. Attachment for white canes: to prevent the tip of the cane from penetrating snow, I invented several attachments which enable the blind person to walk easily, even swiftly, through the snow. These attachments will not penetrate the snow; can slide on the snow; and can be taken off and put on easily.

No. 1 and No. 2 cane (Figure 1) came in 1971. But it was made of plastic and was too slippery. In 1972, I cut the end of the "spuit" made of rubber and put it into the tip of the cane, developing Number 3 and 4. These have proven very resistant to the snow.

2. Classification of snowy roads by progress of the season:

a. Early stage (end of November to

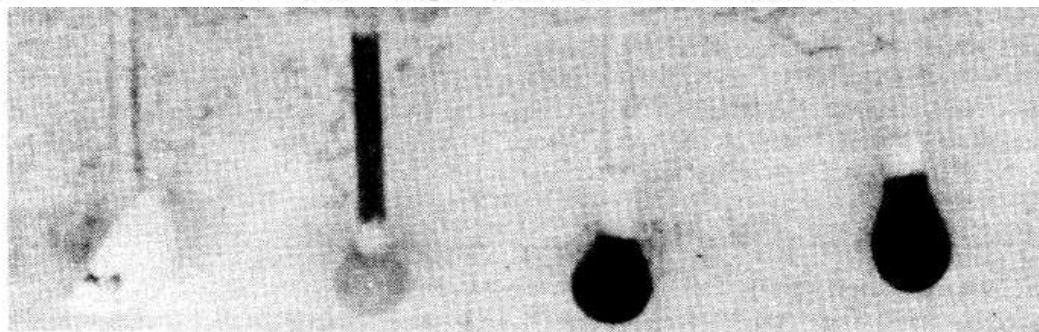


Figure 1. Cane tips modified to cope with winter conditions. The plastic tips found on the two canes on the left were too slippery for winter use. The two canes on the right were modified with the addition of rubber tips.

3 小学部高学年

① 軌跡

- ・図形的歩行軌跡(45° 、 90° 、 135° 、 270°)
- ・太陽・気流を用いた閉鎖図形歩行

② 点図等の触地図の作成と読図

- ・学校周辺

③ 交通機関の使用

④ ルートによる単独帰省

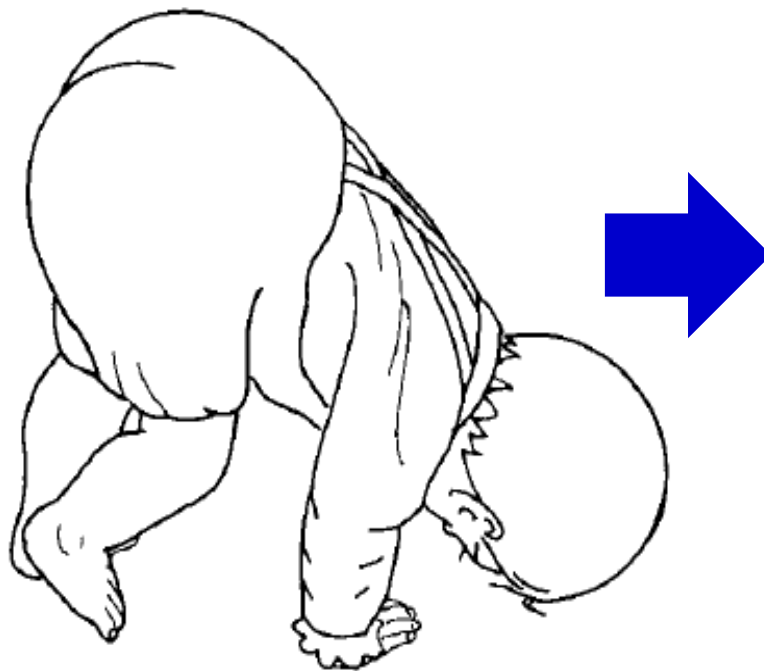
4 中学部以上

① 居住地読図歩行

② 目的歩行

日本の視覚障害特別支援学校

在籍児童生徒数 5,882名 **2011年**
(単一障害) 2,549名 43.3%
(重複障害) 3,333名 56.7%



- ・日常生活の中で
- ・保護者と共に
- ・毎日、継続的に

Kanami

Shuu

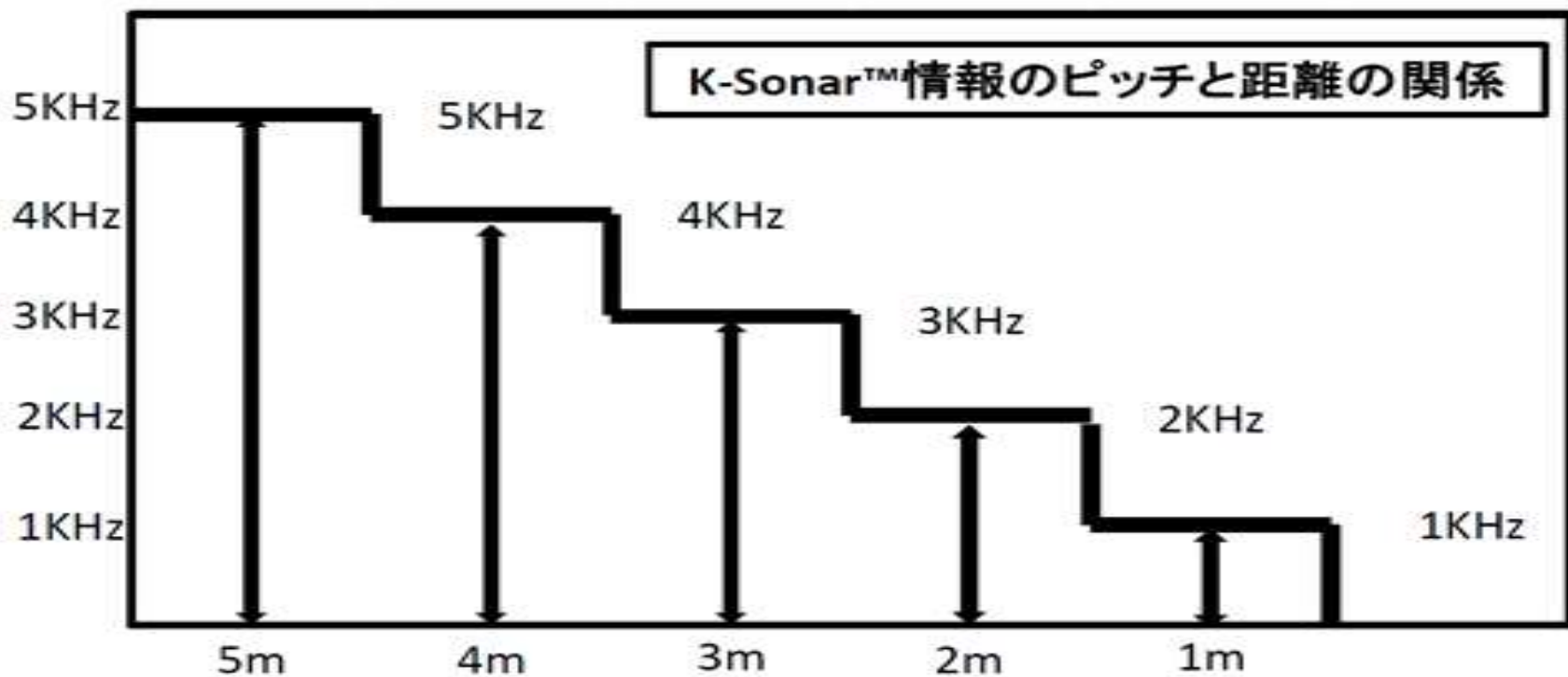
図2-17 高這いで頭を床につけた3点接地姿勢

空間概念指導

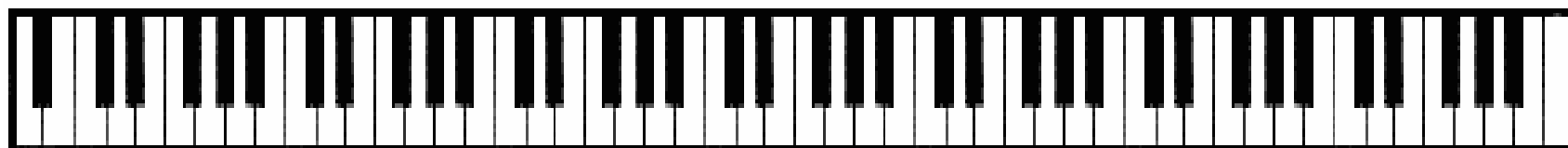


超音波を発射し、
物体から反射してきた超音
波を、可聴音に変換する
視覚障害者用器具

実演



88鍵盤ピアノの音の高さとの関係



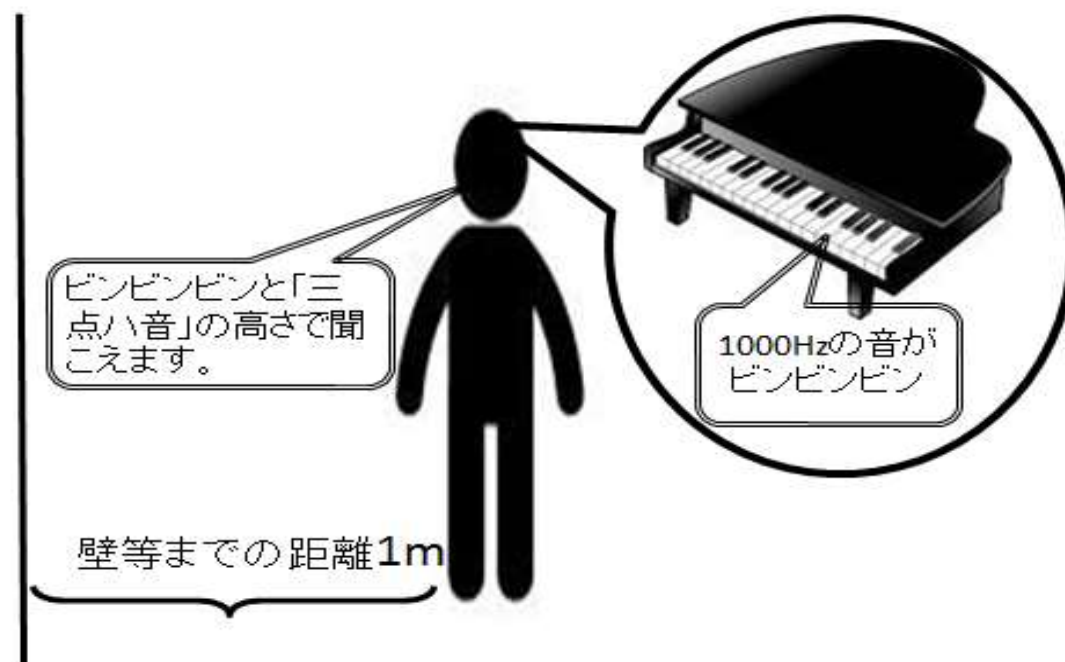
4186.0 4308.0 4421.0 4535.0 4650.0 4766.0 4883.0 5001.0 5120.0 5239.0 5359.0 5480.0 5602.0 5725.0 5849.0 5974.0 6100.0 6227.0 6356.0 6486.0 6618.0 6751.0 6886.0 7023.0 7162.0 7303.0 7446.0 7591.0 7738.0 7887.0 8038.0 8191.0 8346.0 8503.0 8662.0 8823.0 8986.0 9151.0 9318.0 9488.0 9660.0 9834.0 10010.0 10189.0 10370.0 10553.0 10738.0 10925.0 11114.0 11305.0 11498.0 11693.0 11890.0 12090.0 12292.0 12496.0 12702.0 12910.0 13120.0 13332.0 13546.0 13762.0 13980.0 14200.0 14422.0 14646.0 14872.0 15100.0 15330.0 15562.0 15796.0 16032.0 16270.0 16510.0 16752.0 17000.0 17250.0 17500.0 17750.0 18000.0 18250.0 18500.0 18750.0 19000.0 19250.0 19500.0 19750.0 20000.0

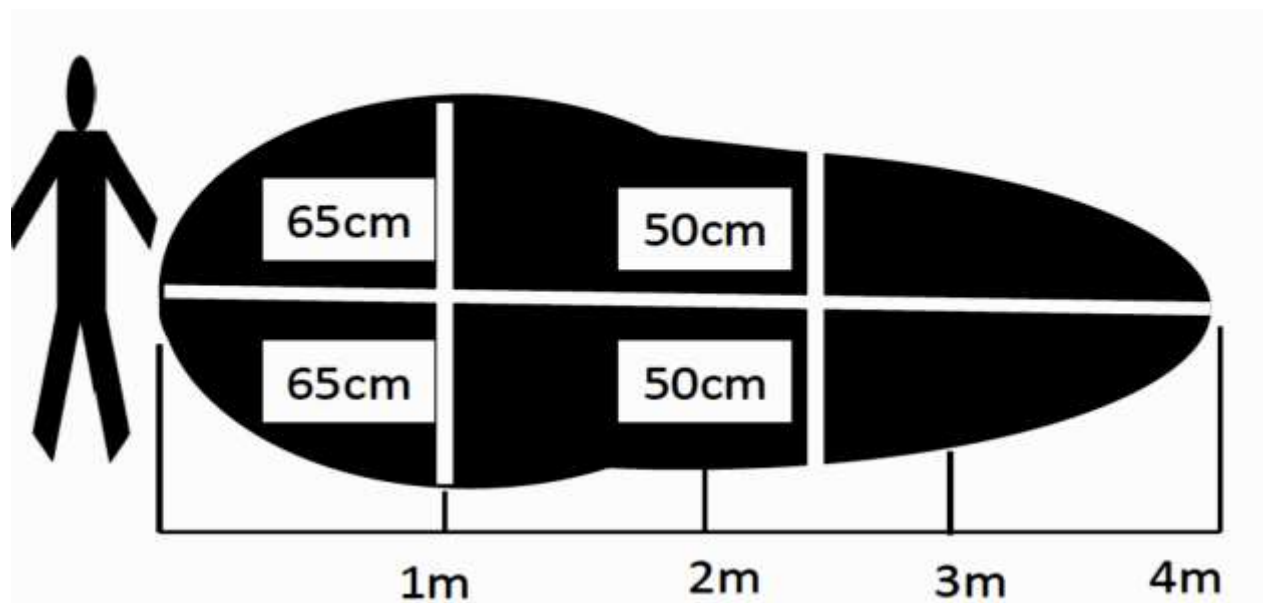


中央「ド」は261.6 Hz
26cm離れたピッチ音

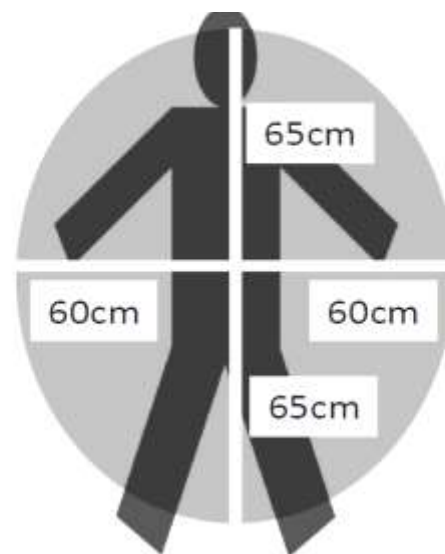


「三点ハ音」は約1m離れた
音



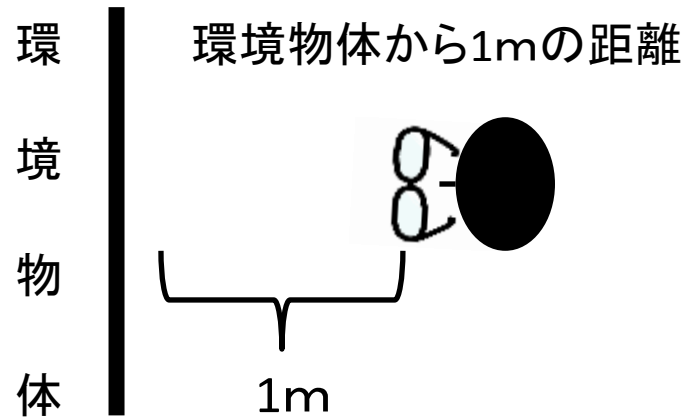


固定した時の、直径2cm、長さ1.5mの
プラスチックポールの探知範囲



Sonicguide情報の録音時の測定方法

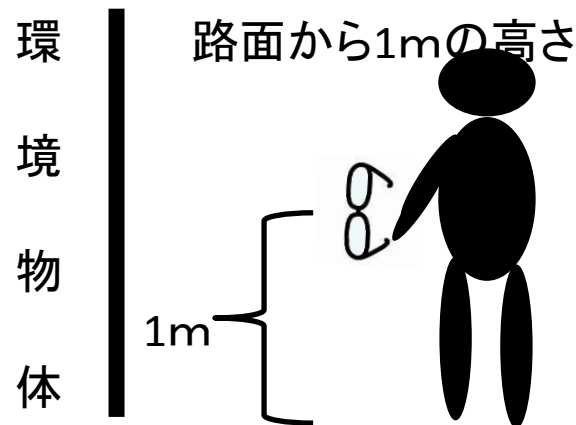
静的状態の音色の測定方法



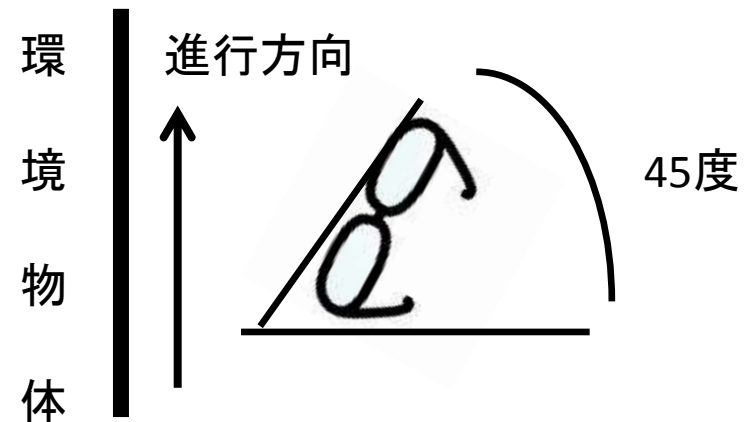
動的状態の音色の測定方法



Sonicguideの高さは路面から1mの高さ



超音波の発射角度は45度



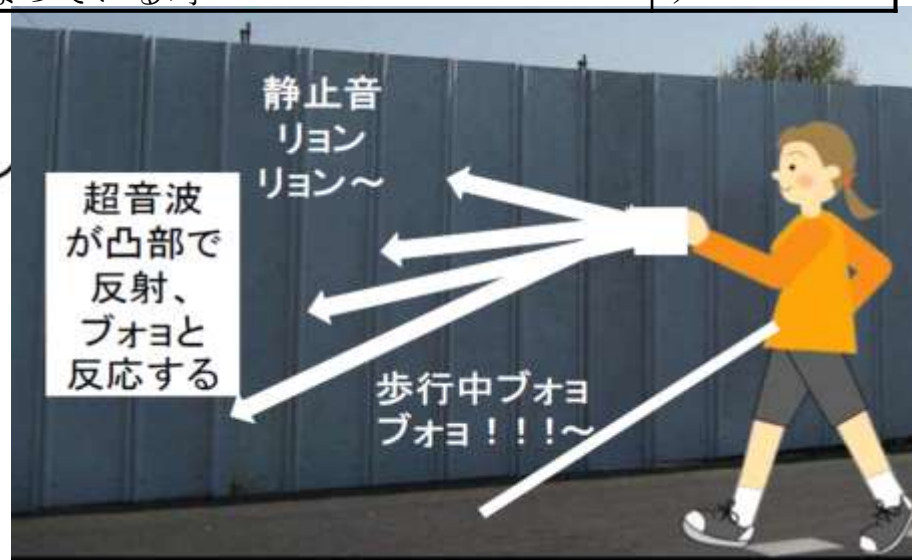
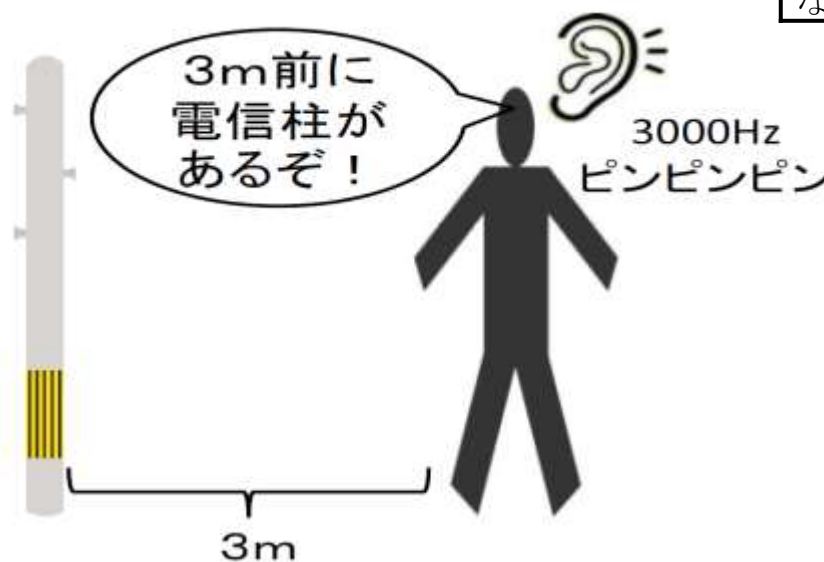
素材をディスプレイ

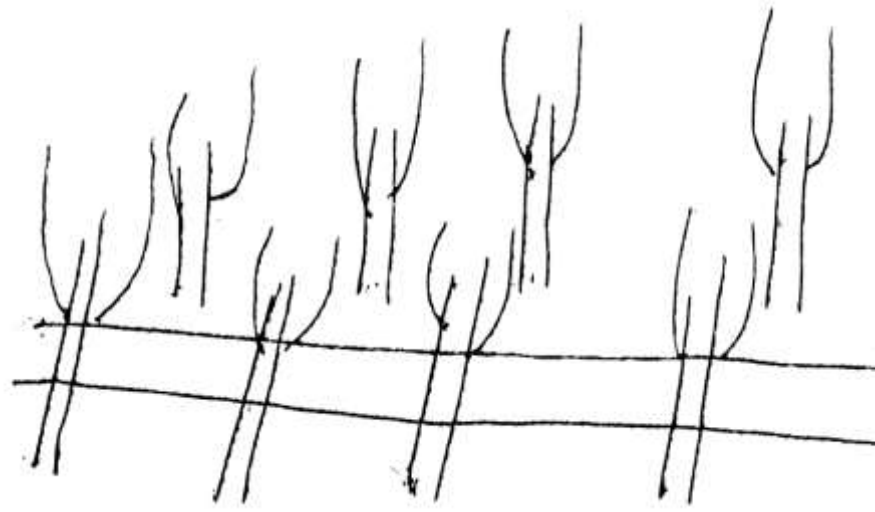
静的状態

具体物の特徴	擬声語
表面がスベスベした細い柱状の物体	ピンピン～
表面が平滑で、ある程度以上の表面積を持つ物	ビンビン～
堅く凹凸があり、ある程度以上の表面積を持つ物	リョン リョン～
網状ないし格子状の物体	リョシュ リョシュ～
密生している小さな葉か、細かい葉の植物	ショヤ ショヤ～
大きな葉か、奥行きのある植物	ジョヤ ジョヤ～

動的状態

具体物の特徴	擬声語
ポール状の物体	ピンピン!～
堅く表面が比較的平らな物体が連なっている時	ジョアジョア～
2～3mごとに溝があるが凸状になっている物体が連なっている時	ピンピン!!!～
堅く平らなブロックが積み重なり連なっている時	ビュウ ビュウ～
50cmごとに凸がある	ブオヨ ブオヨ!!!～
表面が波状になっている物体、かつ表面が滑らかになっている時	シュフィン シュフィン～
格子状の物体が連なっている時	ビュフ ビョフィ～
樹木が株状に連なっている時	シュアシュア～
密生した草木や堅くて鋭い凹凸が連なっている時	シャアシャア～





Evaluating Methods for Teaching Orientation and Mobility with Sonicguide

Sigeo Suzuki

Hokkaido High School for the Blind, 4-21, 4-chome, Fushimi, Chuo ward, Sapporo, Japan

中途失明生徒のSonicguide描画

眼疾: VHL
片眼摘出、片眼視力0

当該生徒がカナタイプライターで記録した風景

上カ ツリ ミチノカ セク ナッテ イタ カ ミチノ ハサ ヲイカ
トウカンカデ オケイ 10本 タッテ イタ



雪が積もり、道幅が狭くなっていた。
木が道を挟み、並行に等間隔で合計
10本立っていた。

距離、方向を学ぶ基礎的な遊び 「射的」



活動5: 射的 I

■ 活動のねらい

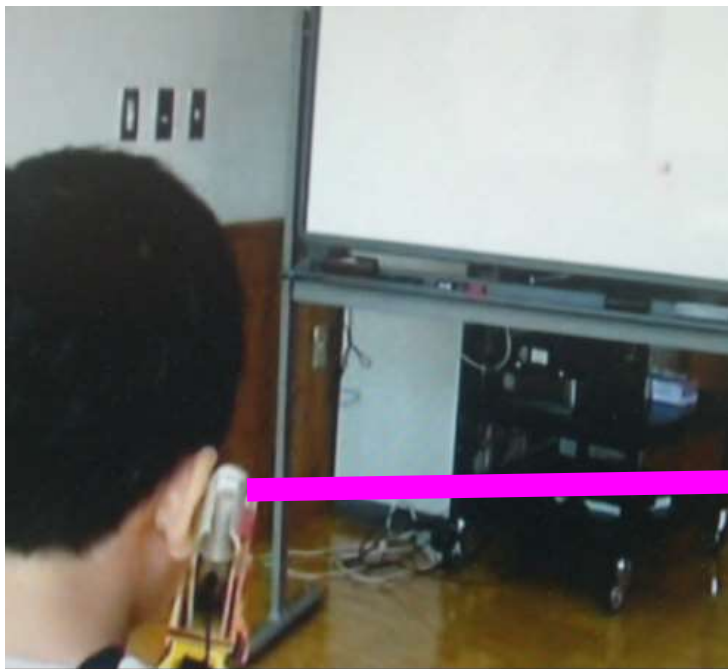
K-sonarを使って標的の位置を確認し、鉄砲で的を射抜く。

■ 活動の概要

ピストルの上にK-sonarを固定し、一体化させる。(写真1・2)

ピストルを両手で持ち、K-sonarの音を確認しながら、スキャンニングする。

ねらいを定めて、ピストルを発射する。



エアピストル

ジオラマ基本練習① 先生、ポール、椅子



ジオラマ基本練習② 環境把握 ジオラマ作製

① 木（立木、植え込み）

人工芝を葉とし、木の枝を幹として組み合わせて作成
植え込みは、枝の部分のみ



② 鉄柵付コンクリート壁

スチール製カゴの一部を切断し、台に接着
長さ、高さは実物に対応させて長、短の2種類製作



④ 鉄製ポール

鉄のパイプを使い、を実物にあわせて
高、低の2種類製作



③ 柱

木製の円柱、高さ10センチメートル



⑤ 階段

パルサ材を組み合わせて製作



ジオラマ パーツ

⑥ 石製モニュメント

石で作られたモニュメントを同じような形の
小石を使いミニチュアを製作



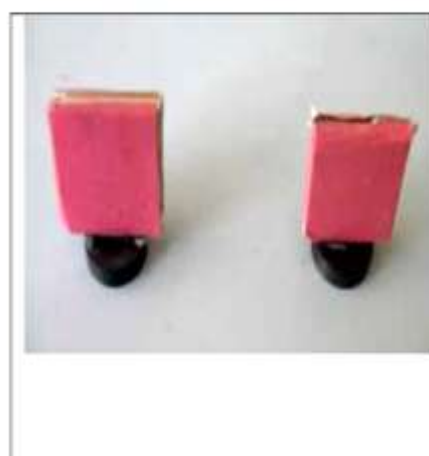
⑧ 机、椅子

木と鉄製パイプを組み合わせて製作
天板、座面、背もたれは木、足は鉄と
素材を実物と同じにした



⑦ 校門

板とサンドペーパーを組み合わせ、ザラザラした
校門の壁を表現



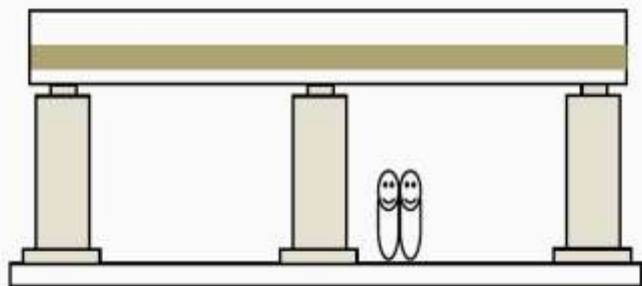
⑨ テレビ

プラスチックを組み合わせて製作





④ イラスト



⑤ 指導対象者のジオラマ製作状況の写真



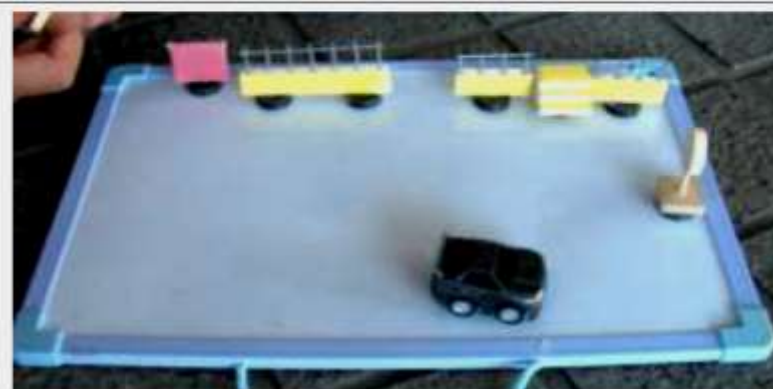
③ 情景写真



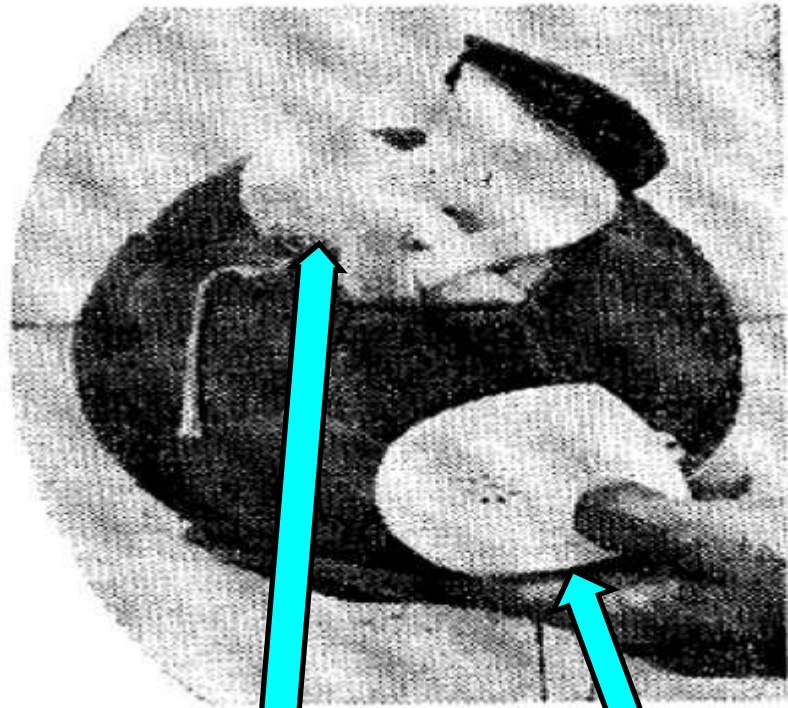
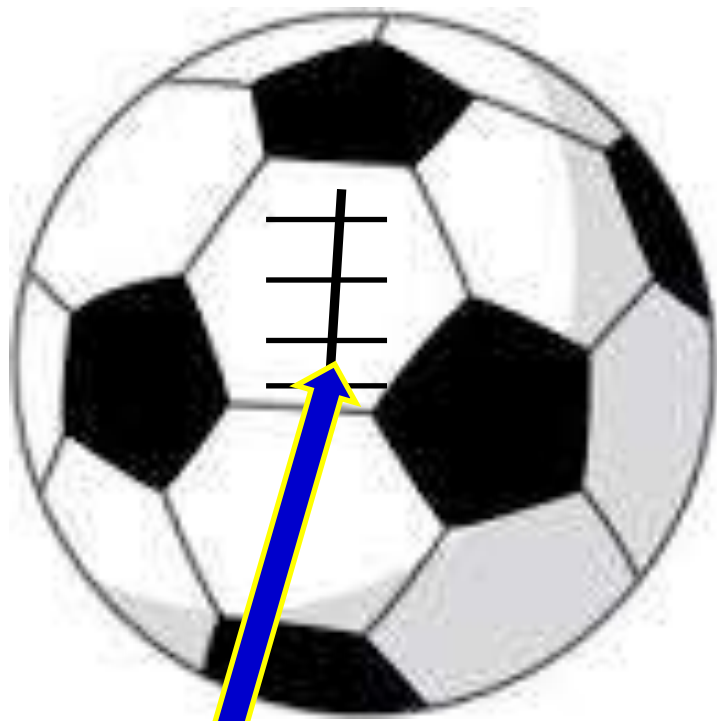
④ イラスト



⑤ 指導対象者のジオラマ製作状況の写真



その他サービス

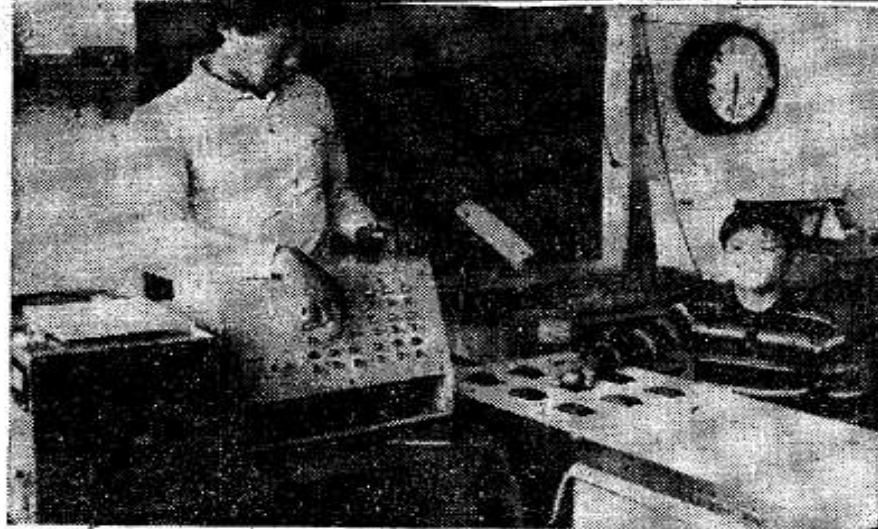


鈴木先生が考案した鈴入りのサッカーボール

スポンジ

痴漢防止ブザー

この後、鈴入り
サッカーボール、バレーボール、ハンドボール、
バスケットボール、ラグビーボール



目の不自由な 子らに朗報

目の不自由な生徒達が安全に横断歩道を渡れるようにと、道立札幌盲学校(盲童部部長・生徒数百七十五人)の一訓練士が「音」と「振動」によって交差点での車の流れを判別させる画期的な機械を開発した。名付けて「感覚訓練用反応装置」。いわば、聴覚を利用した交通安全教育装置だが、日本ではもちろん、世界でも初めてのものと目されている。

画期的な交通安全教育装置

「音」と「振動」を利用 車の流れ判別させる

この機械を開発したのは同校の鈴木重雄先生(左)と感覚訓練士1人。同校では小、中、高等部とも実際に生徒達が街頭に出て横断歩道を渡る訓練をしているが、教室

この感覚訓練用反応装置の発明と作った。

仕組は天井と壁に付けられた十八個のスピーカから順序を追って音を流し、音の動きに対する感覚を身に付けさせようというもの。音は前から後、後から前、右から左へ、左から右へと四方向のほか、前から斜字型へ右へなど、交差点の実情に合わせて八方向へ流れるよう工夫されている。音は電気発振器で、合成、スイッチの操作で自由にどのスピーカからでも音を出せるようになっている。交差点での車の流れを再現出来る。また音の流れをつかみにくい小学部の児童達には、音

盲学校の鈴木
先生が開発

の出ているスピーカを示す九個のバイブレータボタンも卓上に付けられており、どの方向で音が出ているか手でも判別出来るようになっている。

鈴木訓練士は「目の不自由な人は音感が発達していると考えられがちだが、必ずしもそうではない。音感が発達すると車の動きでも手にとるようになるので、まず音感を体感させる訓練方法はないかと考え、この機械を開発した」と話す。

製作費は二十万円かかったが、札幌ライオンズクラブ(中牧保会長)が、同クラブの奉仕活動の一環として全額寄付、市内の美

若に依頼、製作した。すでに道開前から全盲の子供達を対象に訓練を始めたが、音、身の安全を守るためとあって真剣なもの。

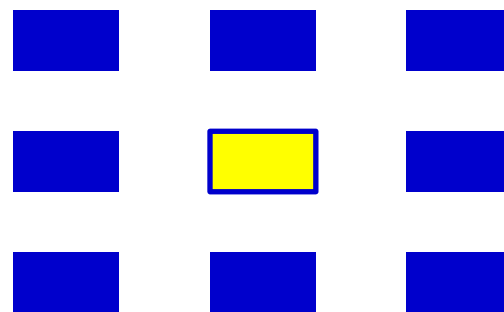
三十一日には札幌ライオンズクラブから同校への贈呈式が行われ、中牧会長、井上交通安全委員、会役員ら五人が、この交通安全

全教室を訪れ、見学、生徒達の訓練場を見学した。中牧会長も「ドライバーの中には白いツエを出しても止まってくれない人がいる。急激に増え続ける交通事故から身を守るためにも、大いに役立つと嬉しい」と話していた。

内でもめる程度、基礎訓練が出来ないかという工夫した結果、
交通安全教室に設けられた
感覚訓練用反応装置と鈴木先生
(左)



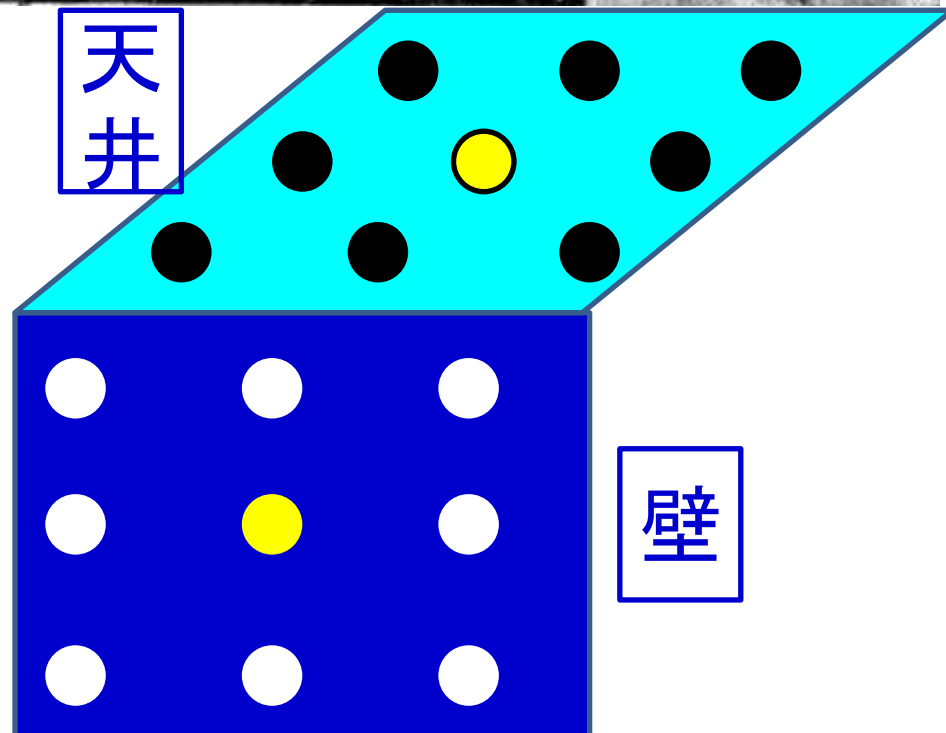
バイブレーター



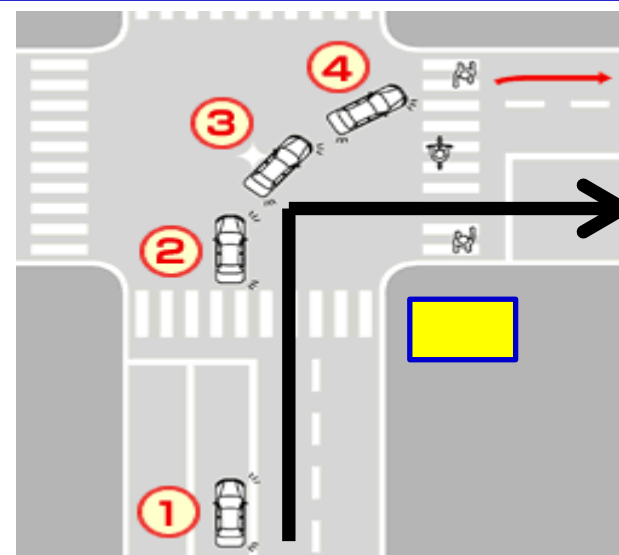
スピーカーと連動

- ・音源定位
- ・音源軌跡
- ・交差点モデル学習

天井



壁



教育

7

「体育は苦手だけど、英語と数学はおもしろくて」——全盲生徒としては、初めて普通高校への入学を果たした、札幌市西区琴似八軒の私立北星学園男子高校(松田平太郎校長)一年、岩間勝美君(二五)札幌盲学校出身が、元氣よく高校生活を送っている。当初、予想された様々な問題は、関係者の温かい協力で、ほとんどが解決された。岩間君の普通高校への順応ぶりは、盲人というだけで、普通教育への門を閉ざしてきた、今の教育制度に大きな疑問を投げかけている。

訳しにくい漢字が多いからだ。

だが、岩間君の普通高校での生活が、このように円滑に進むには関係者の隠された努力があった。

まず、札幌盲学校の担任だった鈴木重男先生が、北星学園男子高校の近くのアパートに、岩間君と移り住んで、岩間君といっしょに入学した弱視の生徒と三人で共同生活を始めた。鈴木先生は、二人の朝食と昼の弁当をつくってから江別の学校へ出勤、夜は夕食をつくる毎日を送っている。

また、岩間君の教科書、試験問題の点字化、点字板の使いやすい学習机の整備などが、点字翻訳のできる神田先生、外部の各奉仕団体の手によって続けられた。神田先生は「みんなの協力がなかったら、彼のスタートはつまずいたかもしれない」という。

岩間君のこれまでの生活を見守ってきた鈴木先生は「まだまだ、これからだ。授業内容が高度になるにつれ、いろいろ支障がでてくるかもしれない。でも、全盲は普通高校へいけない、という教育制



朝食



弁当



夜間:教材点訳



1984.12.9 北海道新聞

S59.12/9

84
スポーツ

熱血先生

今年もまた、いろいろなス
ーツの指導者に会った。どち
かと言へば、その道では有名な
人が多い。しかし、たとえ無名
の指導者であつても、心ひかれ
る人たちは数多くいる。札幌市
中央区伏見の道南高等学校でレ
スリングを教えている鈴木重男
先生なども、そんな一人であ
る。

レスリングは三人だった。札幌、札幌大と、サッカーをやっていたので、最初のうちは学校の生徒たちにサッカーを教えていた。が「あくまでも勝つスポーツを目指す」という信念からみれば、ボールの行方を目で追わなければならないサッカーには無理があった。あれこれと考えた末、目の不自由なハンディを乗り越えやすいスポーツとしてレスリングを思いついた。

五十七年十月、学校にレスリング部を作った。

とはいっても、最初のうちはルールも教え方もわからなかった。毎日、北海高のレスリング部に通って合間練習をさせられた。「あのころ私の五人りの乗用車に生徒を詰め込んで、毎日北海高へ通いました。北海高の早坂先生が快く応に

[illegible]

光州女子大学校
金 日 明 教授 様

感謝